

## 〈資料紹介〉広島原爆戦災誌編さん資料

渡 辺 琴 代（広島市公文書館主幹）

### 1 はじめに －『広島原爆戦災誌』発行の経緯－

今年（令和2（2020）年）広島は、被爆から75周年という節目の年を迎える。被爆者の高齢化が進む中、被爆の事実をどう残し、どう伝えるか、関係資料の保存を図りつつ提供することの重要性は、ますます高くなっていると言えよう。

現在広島の実地調査について調査する際に基本図書として活用されている『広島原爆戦災誌』（昭和46（1971）年発行、全5巻。以下「原爆戦災誌」という。）は、「原子爆弾の未曾有の災禍を克明に記録して、永久に後世に伝え、あわせて人類の平和を祈念する目的」<sup>1</sup>から出版が企画された。昭和37年4月に広島市企画調査室において基礎資料の収集方法等の検討を開始し、同年12月には原爆戦災誌編集に関する一切の業務を広島平和記念資料館が引き継ぎ、昭和46年8月6日に第1巻を発行、同年12月8日に最後の第5巻が完成した<sup>2</sup>。

原爆戦災誌編さん資料は、当初広島平和記念資料館で保管されていたが、昭和52年に広島市公文書館が設立された後、当館に移管された。このたび主要資料の整理が完了したことから、その概要を紹介するものである。なお、資料の目録情報は、「広島市公文書館デジタルアーカイブ・システム」で公開するが、中には公表されていない個人情報を含むものもあることから、利用に際しては制限を加えることもあることについて、あらかじめ御理解いただきたい。

### 2 『広島原爆戦災誌』の概要

#### (1) 広島原爆戦災誌の構成

原爆戦災誌全5巻は次表のような構成となっている。編さんに際しては、研究者が分担して執筆する方法ではなく、収集した情報を元に市の担当職員が執筆し、学識経験者等からなる監修委員会の閲読を受け、指摘事項の再吟味、再調査等を行い、完成させる方法が採られた。

| 巻次及び各巻タイトル                                                       | 発行時期           | 内 容                                                                                       |
|------------------------------------------------------------------|----------------|-------------------------------------------------------------------------------------------|
| 第1巻：第1編 総説                                                       | 昭和46年<br>8月6日  | 被爆被害撮影写真、被爆前・戦時下の広島市の概要及び状況、原子爆弾の惨禍、救護活動等                                                 |
| 第2巻：第2編 各説 第1章 広島市内各地区の被爆状況                                      | 昭和46年<br>9月6日  | 市内36地区の地区ごとの被爆直前・直後の状況と復興への取組等                                                            |
| 第3巻：第2編 各説 第2章 広島市内主要官公庁・事業所の被爆状況                                | 昭和46年<br>10月6日 | 市内主要官公庁・事業所の被爆直前・直後の状況、救援や復興への取組等                                                         |
| 第4巻：第2編 各説 第3章 広島市内各学校の被爆状況、第4章 広島市内主要神社・寺院・教会の被爆状況、第5章 関連市町村の状況 | 昭和46年<br>11月6日 | 市内78校（国民学校から大学まで）、市内主要宗教団体等の当時の状況と復興への取組、周辺市町村の救援状況等                                      |
| 第5巻：資料編                                                          | 昭和46年<br>12月8日 | 「広島市永年防空計画」、「防空日誌（矢賀警防団）」、被爆者の手記、「（県政）雑記帳」、陸軍船舶部隊の戦災処理状況等の原資料の写真・翻刻、被爆の実情を撮影した写真記録者たちの回想等 |

## (2) 情報収集方法

原爆戦災誌の編さんに際しては、主に次により被爆時の状況等の情報収集を行った。すなわち「広島原爆戦災誌資料表」（以下「資料表」という。写真 1～5 参照）による情報収集、市民からの情報収集（体験記、手記、聞き取りによる補足調査を含む）、追加アンケート調査、原資料（公文書等）、既存印刷物、写真等による情報収集である。

このうち資料表については、昭和 37 年 7 月から 9 月の間、市内各地区、主要官公庁、事業所、市内各学校及び関連市町村に対し、それぞれ別様式の資料表を送付して調査を行った。市内各地区は 36 地区（ほぼ学区と同じ）に分け、地区ごとに調査担当の地区委員を定めて調査を依頼している。また昭和 44 年に追加することが決定された「主要神社・寺院・教会」についても、資料表により情報収集が行われた。

しかし、資料表による回答が思わしくなく情報不足もあったことから、昭和 38 年 8 月、広島市の広報紙や報道機関を通じて市民への協力を呼びかけた。これに応じて送付された体験記・手記等により情報が補足された。また、提供された情報に基づいて担当職員が改めて聞き取り調査や情報提供を依頼することもあった。町内会単位で座談会を行うなどして情報を収集した例もある。

## 3 広島原爆戦災誌編さん資料の概要

次に、資料の種類ごとに簡単に解説する。なお、この区分は当初整理されていた区分に準じているため、体験記・手記であっても、資料表を補足する資料として整理されている場合は、そのまま「資料」として区分している。また、個人から寄贈・提供された資料の中には、被爆当時の記録や体験記だけでなく、配布物、刊行物、新聞切り抜き、書簡などを含むものがある。これらについては、種類別に分けるのではなく、寄贈者別にまとめて「資料」に区分している。

### (1) 広島市原爆戦災誌資料表

原爆戦災誌編さんに当たり基礎とした資料であり、内訳は右表のとおりである。

市内各地区の資料表については、「被爆以前から永くその地区内に居住し、地域社会における種々の役職などで活躍し、その当日、わが身も被爆しておりながら救出活動等に献身した市民」等で、「各地区社会福祉協議会長からの推薦によって広島市が選定委嘱した」委員が記入した<sup>3</sup>。官公庁、事業所及び学校等の団体の資料表については、各団体の担当者が記入した。

しかし、爆心地に近く人的被害が大きかった地域では生存者も少なく、被爆後入市した人々の記憶や推察によらざる得ない場合もあったという。また教育機関では、被爆後廃校となった学校もあり、当時の教員等が記入している例もある。

| 種類                 | 点数    | 主要使用か所 |
|--------------------|-------|--------|
| 市内各地区              | 72 点  | 第 2 巻  |
| 主要官公庁              | 21 点  | 第 3 巻  |
| 事業所等               | 26 点  | 第 3 巻  |
| 市内各病院 <sup>※</sup> | 5 点   | 第 1 巻  |
| 市内各学校              | 69 点  | 第 4 巻  |
| 関連市町村              | 50 点  | 第 4 巻  |
| 宗教団体               | 35 点  | 第 4 巻  |
| 合計                 | 278 点 |        |

※病院の調査は昭和 45 年 7 月に実施した。

### (2) 体験記・手記

体験記・手記は、呼びかけに応じて新たに書き起こされたものもあったが、過去に記した体験記（図書や会報等の印刷物に掲載されたもの等）の複写が送付されたこともあった。編さん担当者からの照会に対する回答（書簡）、市民から送付された自筆原稿を担当者が筆写したものなども含んでいる。

軍や病院の一員として、被爆者の救護・救援にあたった個人（陸軍船舶部隊、賀茂海軍衛生学校、海軍呉鎮守府、日赤広島病院及び広島陸軍第一・第二病院の関係者）については、連絡先が判明したものに対

して調査票を送付して情報を収集している。調査項目は、例えば船舶部隊に属する将兵等であれば、被爆時の状況、脱出の経路とその時の周囲の状況、救護活動の場所と状況、活動終了後の原爆症の有無、他の隊員の状況等であった。これらの回答の一部は、救護活動の状況、各職場や地区の被爆状況として本編に使用された。

このほか、昭和 25 年に「市民の貴重な体験を生かして世界平和運動に寄与するため」<sup>4</sup> 本市が公募した原爆体験記（165 編）の原本も一緒に残されていたことから、このたび原爆戦災誌編さん資料の一部として整理を行った。この原爆体験記は、同年 8 月、18 編<sup>\*</sup>を選んで『原爆体験記』（広島市民政局社会教育課編・広島平和協会発行）として発行されたが、広く配布されることはなかった。昭和 40 年には、朝日新聞社から、11 編を加えた『広島原爆体験記』が発行されている。※この他にぬきがきとして一部分掲載したものもある。

### (3) アンケート調査

アンケート「広島市救援活動以後の健康状況」は、昭和 44 年 1 月、原爆投下当時に急遽入市して救援活動を行った陸軍船舶司令部膝下の将兵に対して行われたもので、二次的放射線による障害調査を目的としていた。調査項目とその結果については、第 1 巻に掲載されている。

調査対象と資料点数は次のとおりである。

- ・陸軍船舶練習部第十教育隊江田島幸の浦基地 201 点
- ・陸軍船舶工兵補充隊豊田郡忠海基地 32 点

### (4) 資料

主に資料表の補足のために収集した資料である。原爆戦災誌では被爆前後の広島状況を把握する参考資料として、本市の公文書に加えて、軍や県庁関係者が記録し保管していた資料、市民が保管していた戦中・被爆直後の文書資料も活用した。

被爆前後の広島状況や被害の実態を伝える当時の資料としては、口絵で紹介した「戦災記録」のほか、に次のようなものがある。

#### ・竹内喜三郎資料

被爆当時は豊田郡地方事務所長であったが、被爆後広島県人事課長に就任し、県の被爆救援対策や復旧対策などに当たった。被爆直後の状況を記録した「雑記帳」（第 5 巻に翻刻を掲載）のほか、日記（複製）、昭和 20 年 8 月 14 日付の高野源進広島県知事による「詔書」、翌 15 日付の終戦の詔書を踏まえて作成されたと思われる県知事の「告諭」等、当時の様子を伝える資料もある。

#### ・山田隆夫資料

広島市矢賀警防団関係資料。市が作成した「広島市永年防空計画」、「昭和十六年度広島市防空計画」をはじめ、昭和 20 年 1 月 2 日から 8 月 15 日までの警戒警報・空襲警報の発報及び解除時刻を記録した「防空日誌」等。この 3 点はいずれも、第 5 巻に写真又は翻刻が掲載されている。このほか、当時の防空関係印刷物、警察からの通知等もある。

#### ・広島市作成文書

「昭和二十年八月六日原子爆弾による人的被害及び一か年後の状況調査綴」（口絵写真 2・3）

「昭和二十年八月六日被爆による建物被害状況等調査綴」No.1・No.2

いずれも昭和 21 年に広島市調査課が行った調査。被爆による人的被害、建物被害等の概要をまとめたもので、その一部は第 1 巻の本文中に使用されている。

・移動演劇隊さくら隊被災関係資料

原子爆弾の犠牲となった移動演劇隊「さくら隊」の隊長丸山定夫の死を中心に書かれた原爆体験記「原爆資料 移動演劇さくら隊殉難記」、脚本「原爆と丸山定夫の死 桜隊殉難記」等。体験記と脚本は当時丸山定夫と同じく広島を足場に公演活動を行っていた珊瑚座隊長の乃木年雄が執筆した。関係書簡や「祈武運長久」と書かれた日章旗も残されている。体験記の要約は第 2 巻に掲載されている。また、『広島市公文書館紀要 第 8 号』には体験記と脚本両方の翻刻が掲載されている。

(5) 刊行物

被爆前の広島の様子を写した絵葉書、被爆の実態を伝える体験記や記念史等の書籍、原爆症に関する文献、新聞スクラップ、地図等。

(6) 写真

原爆戦災誌に使用された写真、収集したものの使用されなかった写真及び編さん当時の市内の様子を撮影した写真が、それぞれアルバムに整理して保存されている。一部撮影者が判明しないものもある。

(7) 録音テープ

資料表で情報が集まらなかった地区や官公庁については、状況を把握するため個人への聞き取りや関係者による座談会が開催された。その様子を録音したオープンリールテープが残されている。内容は中島地区、尾長地区（曙町）、基町地区、県庁、爆心地商店街（本通り）に関するもの。一部は要約して原爆戦災誌の本文に使用されている。

## 4 むすび

原爆戦災誌編さん関係資料としては、他に事務資料、原稿・版下等も残されているが、これらの紹介については、デジタルアーカイブ・システムでの公開に代えさせていただく。

今回紹介した資料群は、被爆からほぼ 20 年が経過した時点で収集されている。まだ記憶が明確な時期に収集されたものであり、非常に貴重な資料といえるだろう。広島の被爆前の状況、原爆の被害、その後の復興の歩みをたどる上で有益な資料群であり、今後の被爆体験の伝承、原爆被害の検証等に役立てられることを期待したい。

### 【注】

- 1 「広島原爆戦災誌」予約募集用チラシ 1971 年
- 2 『広島原爆戦災誌 第五巻』 pp.1007-1009
- 3 同書、p.1004
- 4 「原爆体験記を募集 広島市」『中国新聞』1950 年 5 月 28 日

### 【参考文献】

- 『広島原爆戦災誌 第一巻～第五巻』広島市編・発行 1971 年  
『広島県史 原爆資料編』広島県編・発行 1972 年  
『新修広島市史 第七巻』広島市編・発行 1960 年  
近藤憲男「＜資料紹介＞移動演劇団桜隊隊長丸山定夫の死」『広島市公文書館紀要 第 8 号』広島市公文書館編・発行 1985 年



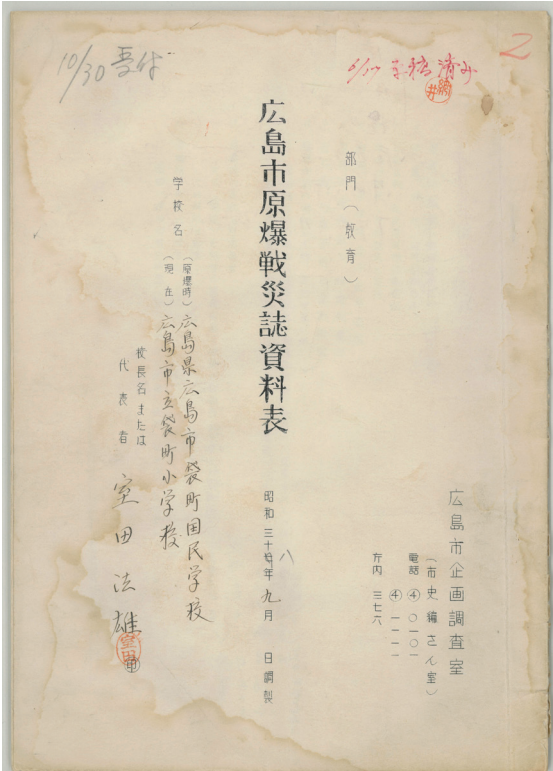
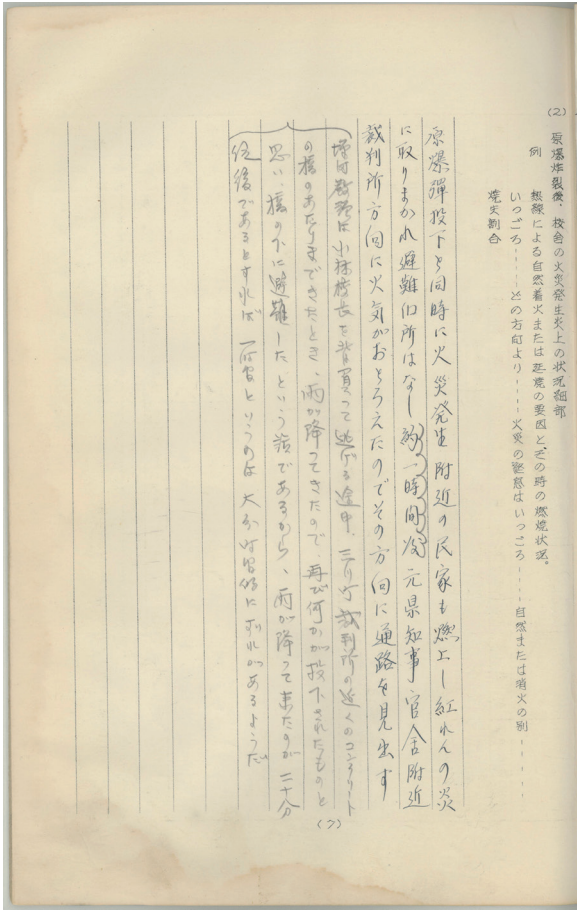


写真 1 ～ 5 袋町小学校の「広島市原爆戦災誌資料表」(抜粋)  
爆心地に近い袋町国民学校では学校にいた教職員・児童の多くが死亡した。学校再開後の苦勞についても、細かく記述されている。

